



楷

第四十一号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.41

2005
 OCTOBER

<写真>
 ひもたけ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

目次

科学・技術史の宝庫（附属図書館資源生物科学研究所分館長 青山勲）.....	p. 2
学生用図書の整備に向けて（情報管理課）.....	p. 4
池田家文庫デジタル絵図活用プロジェクトについて（電子情報係）.....	p. 6
学術機関リポジトリの形成に向けて（電子情報係）.....	p. 8
マスカット	p. 9
池田家文庫絵図名品展、資料配置変更、データベース等講習会ほか	
会議・研修・編集委員会から	p.14

科学・技術史の宝庫 ～資源生物科学研究所史料館貴重文庫・図書のご案内～

青 山 勳

岡山大学附属図書館分館新「史料館」は1994年に竣工し、翌年1月から開設された。ドアを開けて入ると、左側にオフィス・サービスカウンターがあり、係員が笑顔で迎えてくれる。右側には複写・情報検索コーナー、新着雑誌棚がある。棚の奥の展示ケースにはW. Pfefferによる世界最初の植物生理学の教科書である「Pflanzenphysiologie」、ダーウィン自著の「The Power of Movement in Plants」、これはダーウィンからペツファーに献呈されたもので、表紙の裏にはダーウィン自身の署名が記されている珍しい書である。1873年に出版された「Physiotypia Plantarum Austriacarum」は本物の植物を鋳型に印刷した植物図鑑で、その植物の絵は精緻な立体図で、指で触れると葉茎の凹凸がそのまま感じられ、葉脈が鮮やかに浮き上がっている。このような技術は今ではもはや再現不能であろうと思われる程の強い印象を見る人に与える。他にも昆陽漫録、農政全書、豆腐百珍などの古書は、科学史に関心のない人にも興味を抱かせてくれる。また当時使用された計算機、タイプライター、カメラ、顕微鏡、表面張力測定器なども展示されており、当時の科学技術のレベルを推し量る事が出来る。奥の階段を上ると、二階には閲覧室と雑誌書架、三階には閲覧コーナー、情報処理室そして貴重書庫がある。係員に依頼すると、ドアを開けてくれる。中に入ると様々な貴重文庫・図書が書棚一杯に並んでいるのを見て、圧倒されることと思う。虫除けの燻蒸の臭いがするだけで古書への興味を注がれることであろう。

さて、岡山大学附属図書館報「楳」のバックナンバーを繰って見ると、過去の分館長が様々な資源生物科学研究所分館（史料館）の紹介をしている。しかし、残念なことに、今なお分館に足を運び、実際に書物に触れてはじめて、様々な貴重図書のあることに気づかれるのが実情である。「楳」への寄稿に当たり、史料館に所在する貴重図書を中心に、本誌面を借りて紹介したい。

資源生物科学研究所史料館の書籍について語るとき、先ずその沿革から始めたい。本研究所は1914年（大正3年）財団法人大原奨農会農業研究所として、大原孫三郎氏によって創立された。当時の農業研究所員の研究促進、農業の発展ひいては小作民の生活を少しでも豊かにするために創立されたのである。本分館は1921年に農業図書館として設置されて以来今日に至っている。この90年に及ぶ歴史が、今なお農学系の図書館として国内でも有数の資料を有している所以である。2004年度の資料で、所蔵冊数181,323冊（内、和書91,231冊、洋書90,092冊）所蔵雑誌数10,377種（内、和雑誌5,837種、洋雑誌4,540種）を所蔵している。

当史料館における特記すべき貴重文庫は、まずペツファー文庫、大原漢籍文庫、大原農書文庫を挙げる事が出来る。ペツファー文庫と呼ばれるものはドイツの元ライプチヒ大学植物学教授ペツファー博士（1845 - 1920）の全蔵書11,730冊のことである。ペツファーは植物生理学者で細胞膜の浸透圧の先駆的な研究者であった。前述の「Pflanzenphysiologie : Ein Handbuch des Stoffwechsels und Kraftwechsels in der Pflanze (1881)」は彼が36歳の時の著書で、重要な植物生理学の教科書として長年使用された。ペツファーはその改訂にあたり、大型特製初版本の広い余白にペツファー自らが改訂文を書き込んだ珍しい本が文庫の中に含まれている。自筆の書はドイツ語で判読が困難であるが、一部については、ドイツ人に清書を依頼した。手書きのインクは時間と共に薄くなって行き、いずれ全く判読不能になる事を恐れ、15～6年前に写真製本による復刻版を作成し、ペツファーゆ

かりの人たちに贈呈された。本文庫の目録がカード化されているが、このままでは広く知ってもらえないので、デジタル化し、検索可能なデータとして残す作業を始めたところである。このペッファ―蔵書入手の経緯を調べるとますます興味が惹かれる。1920年ペッファ―博士の没後、遺族から蔵書が競売に出され、大原孫三郎氏が世界との競争に勝ち、購入した。これは当時第一次世界大戦の直後で、わが国の国力、大原孫三郎氏の財力を示すだけでなく、氏が財界人でありながら優れた文化人であったことを示している。蛇足すると倉敷の大原美術館は、同氏が倉敷の画家児島虎次郎に命じて、ヨーロッパで買い集めたコレクションでもある。

大原漢籍文庫は大正12年に蒐集された中国の明、清時代の農書4,834冊のコレクションである。これは大原漢籍文庫目録として刊行されている。この中の「農政全書」は1639年明時代の初版本で、2秩入全60巻12冊からなる大著である。当時の政治家徐光啓が治国治民の農政を主題として著述した農業全般に及ぶ農書で、彼の没後6年目にしてようやく遺稿として世に出された。内容は農本、田制、農事、水利、農器、樹芸、蚕桑、種植、牧養、製造、荒政などの項目毎に記述されている。本書の装幀は12冊とも袋綴、四針眼訂法の明朝綴りになっている。これも大原孫三郎氏が、往時の大原農業研究所の所員、松本圭一、西門義一両氏を1923年（大正12年）に中国に派遣して農業関係の漢籍、本草書を購入・蒐集させたものであり、これら全体の特殊文庫を称して「大原漢籍文庫」と呼んでいる。

大原農書文庫は大正10～13年頃の間、日本の農業に関する図書を網羅的に蒐集した農書のコレクションで、和装本群782点2,576冊を総称している。この大原農書文庫の目録は日本十進分類法に従って分類されている。つまり本文庫は総記から文学までのすべての分野を含む多岐にわたる内容を含んでいる。分類的には一見農業と関連のないものも含まれているように見えるが、内容的には広義に農業書と言えるものばかりである。本文庫に所蔵されている代表的なものは、わが国最初の刊行農書である宮崎安貞の「農業全書」をはじめ、羅列すると、「農家益」、「老農茶話」、「農具便利論」や「農政本論」、「徳用食鑑」、「農業自得」、「勸農新書」、「俳諧煙草集」、「教訓商農録」、等等、実に多岐に渡る書物が近世紀を中心に蒐集されている。

これらの書物の他にも、ボローニャ大学教授のマルチェッロ・マルピギーの全集「Opera Omnia (1687)」(植物、動物、及び医学に関する論文集)や青木昆陽の「昆陽漫録(1768)」などが所蔵されている。

研究所の分館・史料館は農学・植物学の歴史を紐解く、科学・技術史の宝庫でもある。農学、植物学、植物生理学さらに農業技術発展の歴史を古書の中に見いだす事が出来る。しかし残念な事にこれらの宝は書庫の中に眠っている。現代の観点から改めて光を与えたいと願っている。しかし古書は紙質が悪く、広げるとボロボロと崩れかねない。古書に光を与え、利用するためには安全に保管する算段を講じなければならない。新しい科学技術の進展を図る事はわが国の根幹を支える重要なことではあるが、一方では、このような古書、言い換えれば歴史から何かを学び取ろうとする姿勢はわが国の「文化」の質に係わる問題であるといえよう。

(あおやま・いさお

資源生物科学研究所分館長)



昆陽漫録(資源生物科学研究所分館所蔵)

学生用図書への整備に向けて

情報管理課

1. はじめに

平成16年度からの国立大学法人への移行に伴い、岡山大学においても、組織、予算配分などの変化の大波は図書館にも押し寄せてきています。予算配分の面から見ると、平成16年度は法人への移行初年度ということから平成15年度に近い形で予算が配分されましたが、平成17年度からは、全学的見地から、学術情報基盤整備を図るために3億円近い特別経費が配分されました。これにより電子ジャーナル、データベースについては国内トップレベルにまで充実することができたと考えています。学術情報基盤とは、電子ジャーナル、データベース、学生用図書の3本の柱から構成されます。そのうち電子ジャーナル、データベースについてはこれまでも本誌で何度も紹介されていますが、学生用図書については余り言及されていないので、ここで簡単に触れておきたいと思います。

2. これまでの資料整備への取組

1) 21世紀図書館資料整備第1次5か年計画

附属図書館における資料整備については、平成12年度から始まった「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」が直近の計画です。

平成10年度の図書館運営委員会において、岡山大学附属図書館は、他大学と比較して資料費が少ない、資料の重複購入が多く非効率な経費支出となっている、といった意見が出されました。また学生からは、図書館の資料は古い、新しい図書・雑誌がない、特に大学院生向けの専門雑誌が少ないといった意見があったため、その改善策を早急に作成することが緊急の課題となりました。これを受けて「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」案が作られました。その後の経緯は以下のとおりです。

平成11年3月18日	平成10年度第5回図書館運営委員会で、「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」を承認
平成11年4月14日	学部長会で了解
平成11年4月28日	評議会です承
平成12年度	年次計画スタート 当初配分9千5百万円
平成13年度から	教官当積算校費・学生当積算校費の廃止、及び超過分の大学院学生定員の配分予算の廃止に伴い、7千1百万円に減額される
平成16年度	最終年度であるが、法人化に伴い計画は打ち切られた。ただし、前年度と同額の資料整備費（電子ジャーナルを含む）の配分を受けた

2) 「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」の概要

資料整備に当たって、以下の4点を基本的方針としました。

- (1) 総合大学としての岡山大学にふさわしい基本的な共同利用資料を整備する。
- (2) 学術情報が多様化・増大化する中で、情報共有による共同利用の促進によって経費の効

率的運用を図り、適切な資料を確保する。また、学術情報を迅速に提供するため、電子情報化を促進する。

(3) 研究情報 自然科学分野 : 主に学術雑誌(電子ジャーナルを含む)の充実
人文社会科学分野: 主に研究コレクション・図書の充実

(4) 教育・学習情報 基礎教育、専門教育及びデータベースを含む学術情報を調査するための資料の充実

この基本的方針は、多少の手直しが必要としても、なお有用ではないかと考えます。

3. 「学生用図書整備指針」の制定

1) 学術情報基盤整備

「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」は曲がりなりにも終了したことから、第2次計画の策定に代わるものとして、平成17年度からの学術情報基盤整備の中で、電子ジャーナル、データベース、学生用図書の整備が図られることになりました。学術情報基盤経費約2億8千万円の支出内訳は、電子ジャーナルが約2億2百万円、データベースが約4千3百万円、学生用図書が約3千3百万円となっています。学生用図書の整備については、具体的な指針がなかったため、平成17年6月に「学生用図書整備指針」を制定しました。

2) 学生用図書整備指針の概要

学生用図書の範囲

- A. 講義関連図書(シラバス掲載図書を含む)
- B. 専門図書
- C. 一般図書
- D. 参考図書
- E. 適正な蔵書構成を維持するために必要な図書(郷土資料、留学生用資料など)
- F. 継続雑誌

学生用図書の選定 本館、分館それぞれで選定する。

4. 課題その他

- 1) 平成17年度は、電子ジャーナル・データベースの整備を優先したため、学生用図書についての取組が遅れていましたが、今後は学生用図書の整備に一層取り組む予定です。
- 2) 分館については、平成16年度までは附属図書館からの資料費の多くが学術雑誌の購入に充てられ、学生用図書の整備が遅れていました。平成17年度からは、従来から購入していた学術雑誌の殆どが電子ジャーナル化されたことにより、配分された資料費の多くを学生用図書の購入に充てることできるようになりました。
- 3) 資料整備の観点から見ると、平成13年度まで予算措置されていた大型コレクション等の高額図書の整備についての検討が必要と思われます。
- 4) 学術情報の電子化の流れの中で、電子ジャーナルに対比される電子ブックの導入についても今後の検討課題です。附属図書館で想定しているものは、インターネットを介して利用する学術書の電子ブックです。

池田家文庫デジタル絵図活用プロジェクトについて

電子情報係

これまで全国の大学図書館では、所蔵貴重資料のデジタル化及び画像公開が行われてきました。その多くは学術研究を主目的として作成・公開されたため、大学図書館のホームページから検索やブラウズなどの方法により、網羅的に一覧表示させるような見せ方ばかりで、一般利用者にとっては内容が難しく、かけ離れた存在となっていました。大学と地域社会との融和が求められる社会において、貴重資料は地域社会に還元できる文化財であることを、大学図書館は認識した上で有効な活用方法を考えなくてはなりません。本稿では、岡山大学附属図書館が所蔵する池田家文庫絵図類のデジタル画像から知り得る歴史的・文化的情報を生かした地域住民（県民・市民）に向けたデジタル絵図活用プロジェクトについて紹介します。

1. 池田家文庫絵図類デジタル化事業のあらまし

平成8年度にはじまった池田家文庫絵図類のデジタル化事業は、平成16年度に池田家文庫分類記号T13「雑」に属する一部の絵図類を残して終了しました。デジタル化事業は、日本学術振興会の科学研究費補助金の助成のほか、岡山県立図書館や岡山市デジタルミュージアムなど地方自治体からの協力を受けて行われました。

平成14年度には特に貴重とされる「備前国図（慶長期）」、「備前国九郡古図（寛永期）」、「備中国図（寛永期）」、「岡山古図（寛永期）」、「岡山城下之図（慶安年間）」の大型絵図を中心に高精細画像のインターネットでの公開を始めました。特に、「岡山城下之図（慶安年間）」は、現物では江戸中期の岡山のまちを東西南北に4点に分けて描いていますが、公開した画像はあたかも1枚の絵図のように合成した高精細画像です。2年間の公開では大きなトラブルもありませんでした。

平成16年度に、これまでに作成した約1,200点の絵図画像について高精細画像のフォーマット変換を行い、平成17年4月から岡山大学附属図書館「池田家文庫絵図類総覧」（<http://carista.lib.okayama-u.ac.jp/zooma/>）で公開をはじめました。

2. 池田家文庫の利活用

岡山大学は平成16年4月に国立大学法人となり、国立大学時代にも増して、地元および地域社会との密接な連携を考えています。附属図書館で所蔵している池田家文庫の史料類（古文書、絵図類、和書、漢籍）は、江戸時代における岡山の歴史・文化・社会を知るための知的文化財です。とりわけ郷土岡山で生活をしている岡山県民にとって、200～500年前の岡山を知るための共有の情報資源であると言えます。

岡山大学附属図書館では、これまでに古文書のマイクロフィルム作成事業、絵図類のデジタル化事業、年一回の池田家文庫等貴重資料展の実施、博物館などの展示会への資料の貸し出しなどを通じて、池田家文庫利用の促進を行ってきました。多様化する社会の中で、これからの大学図書館は単に貴重資料を利用・提供するサービスだけでなく、研究者、地方自治体、公共図書館と協力して貴重資料から得られる情報を使って、郷土の発展に生かす教育支援を考えなくてはなりません（図1）。

3. 地方自治体と連携したデジタル絵図活用プロジェクト

池田家文庫絵図類はデジタル化事業を通じて、現物資料を傷めることなく活用することが可能となりました。しかし、単に絵図類を公開しているだけでは、絵図類に関心を持った一部の住民にしか活用してもらえません。例えば、「児島内海分間見取絵図 (T8 71)」(<http://zooma.lib.okayama-u.ac.jp/T8-71/>) には、江戸時代中期の備前国と備中国の児島湾干拓をめぐる国境紛争の主張が表現されています。このような歴史的な事実、事象、文化、情報こそが重要であり、わかりやすくコンテンツや教材として組み立て、地域の生涯教育や学校教育に活用してもらうことが求められています。コンテンツ作りは大学や図書館だけでは困難であり、主役である地域と連携した体制で進めることが肝要です。

このことを踏まえ、岡山大学は平成16年9月に岡山県と文化事業協力協定を結び、岡山県民の文化の享受及び生涯学習への貢献を目的として、岡山県立図書館への池田家文庫絵図類のデジタル画像の貸し出しを行いました。現在、岡山県立図書館と共同作製した絵図類のほか、本学の絵図4点が、岡山県立図書館の「デジタル岡山大百科」(<http://www.libnet.pref.okayama.jp/mmhp>) からアクセスできます。

また、岡山市との連携では、教育委員会、小・中学校、博物館と一体となって、学校教材の製作と学校教育への利活用、池田家文庫絵図名品展の岡山市デジタルミュージアムでの開催(期間：平成17年9月29日～10月10日)、岡山市デジタルミュージアムにおける絵図類デジタル画像の常設展示を行うため、平成17年2月に文化事業協力協定を結びました。当面は、学校教員に池田家文庫絵図類の存在が十分に知られていない実態を克服するため、PR活動に力点を置いて活動を行うと共に、小・中学校での絵図類を使った学習指導案や学校教材についても検討を行っています。

4. まとめ

郷土の歴史、文化を学ぶということは、郷土への愛着の心を育むことにつながります。我々は心の豊かさが郷土岡山の発展に繋がるものと信じて、今後も池田家文庫デジタル絵図活用プロジェクトを活性化していきたいと考えます。

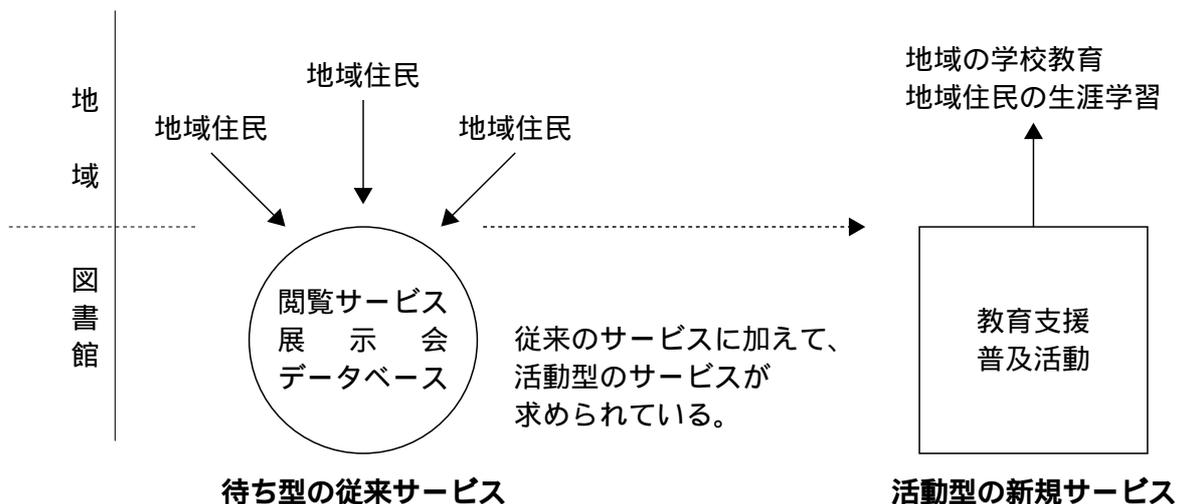


図1 貴重資料の利活用サービスの変化

学術機関リポジトリの形成に向けて

電子情報係

学術情報の商業出版への懸念

今日まで、学術雑誌や学術図書は、世界中の研究や教育などの学術的活動に利用されてきました。また今後も、学術的な情報を流通させる手段として、学術雑誌や学術図書は電子的に変化しようとも大きな役割を担うことに変わりありません。こうした学術情報の流通に変化が生じてきています。古くから学術情報の流通手段として、商業出版に依存してきたことを要因として、年々の値上りによる「雑誌危機」・「シリアルズ・クライシス」などと呼ばれる世界的な流通停滞が問題となっています。期待された電子ジャーナルの出現もこの歯止めとならず、現在も毎年高騰（年間10～20%）を続けています。出版社等から見れば経済性（利益追求）を優先した学術情報の出版も、学術機関や研究者等にとっては本当に望ましい学術情報流通のあり方であるとは言えません。

学術機関・大学による行動の必要性

学術雑誌高騰の対応措置として、国内外の大学・大学図書館ではコンソーシアムの形成、パッケージ契約による費用対効果の向上、商業出版社等との価格交渉などを行ってきましたが、商業出版社等が優位な状況を打破するには未だ至っていません。

現在のような学術雑誌の高騰が今後も存続するようであれば、岡山大学でも、5年後には現在の学術情報基盤経費では学生用図書や二次情報データベースの購入は困難になります。数年間は利用統計を分析しながら、利用のないタイトルや二次情報データベースの中止によって予算内の運用を行いますが、大学にとって学術情報は研究の生命線である以上、構造的に学術情報の流通が変化しない限り、根本的な解決は困難です。世界で「オープン・アクセス（Open Access）」という運動が活発になっており、近年商業出版社によっては研究者自身が所属機関からポストプリントを公開することを許諾する動きもあります。

「機関リポジトリ」の形成

大学にとって、「オープン・アクセス」を形成する形態として、大学自身で学術情報発信を行い、大学に所属する研究者が研究成果である学術論文を掲載して公開する「機関リポジトリ」があります。こうした「機関リポジトリ」の形成と普及は、単なる学術成果の発信だけでなく、長期展望を見たとき研究者の視点に立った望ましい学術情報流通の形成に繋がります。まだまだ、商業誌や学会誌への投稿傾向からは簡単に变化できる状況にありませんが、大学や研究者への粘り強い啓蒙活動を行うことで学術情報の「オープン・アクセス」を拡大させることが肝要です。既に、MITやカリフォルニア大学、ケンブリッジ大学、トロント大学など数多くの大学では「機関リポジトリ」を構築し、「オープン・アクセス」の動向の中で成果情報の発信を行っています。

岡山大学としても、単なる学術成果の公開だけでなく、世界の動向に沿って動かなければなりません。図書館としては、学内の研究者が学術情報の流通についてどのような意識を持っているのか把握すると共に、「機関リポジトリ」についてより多くの研究者に知ってもらおう努力を続けたいと思います。

参考資料：国立大学図書館協会学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクト「電子図書館機能の高次化に向けて 学術情報デジタル化時代の大学図書館の新たな役割 -」（2005年6月）

マスカット

江戸時代の岡山 ～池田家文庫絵図名品展～のお知らせ

例年、図書館で開催していた「池田家文庫等貴重資料展」を今年は、岡山市デジタルミュージアム4階企画展示室で開催します。岡山大学附属図書館が所蔵する池田家文庫の約三千点の絵図の内から、特に優れた江戸時代の絵図の展示となります。とりわけ、現在に至る岡山の歴史や文化、あるいは岡山城と城下町、児島湾干拓地など岡山の成り立ちを知ることのできるものが中心です。

開催期間は平成17年9月29日(木)～10月10日(月)の10:00～20:00ですが、10月3日(月)は、岡山市デジタルミュージアムが休館のため、展示会もお休みです。

また、10月1日(土)13:30～15:00には「池田家文庫絵図の見方」と題して、岡山大学文学部 倉地克直教授の記念講演会が予定されています。同日は他にも10:30～12:00にミュージアムジュニア講座・ワークショップとミュージアム講座が平行して開催されます。入場料は、無料です。ぜひご来場ください。

中央館積層書庫入庫・資料配置変更のお知らせ

安全上の理由から中央館積層書庫に入庫するには申請が必要です。6月から本学の教職員に加えて、大学院生、学部学生も申請可能になりました。平日9時から16時までの間にカウンターにてご申請ください。申請用紙をお持ちでない方は、平日の9時から17時までの間にカウンターにてご請求ください。

入庫できるのは平日の9時から16時45分までの間です。上記の手続きをしていない利用者には、図書館職員が資料の取り出しを行っています。原則、申し込み日の翌日渡しとなります。

本年3月に、新館1階に新しく書架を増設し、積層書庫にあった資料で利用の多いものを移動しました。同時にこれまで新館4階にあった分類番号が0番台の図書を新館1階に移動しました。図書館ホームページの蔵書検索で検索し、所在が「新館1F(中央館)」または「新館1F特設」となっていたら、そちらをご利用ください。

またこれまで積層書庫にあった一般総合雑誌(バックナンバー)、新館1階参考図書コーナーにあった各国目録、新館3階にあった都道府県史を、新館6階西の保存資料書庫1に移動しました。所在が「新館6F西」「新館6F西総合雑誌」「新館6F西六高図書コーナ」となっているものはそちらにあります。平日の9時から17時までの間、開室していますので、ご自由にご利用ください。

なお所在が「新館6F書庫0～9」「新館6F書庫重複」「新館6F個人文庫」となっているものは、閉架書庫にあります。利用したい場合は、館内の各パソコンコーナーに設置の「書庫所在資料請求票」にご記入の上、カウンターにてお申し込みください。

鹿田分館資料配置変更のお知らせ

平成17年度より、外国語の図書を1階閲覧室から2階閲覧室へ移動しました。配置は従来どおり背ラベルの請求記号順です。

SourceOECDの利用について

OECD（経済協力開発機構）が発表している出版物や統計データをオンラインで利用できるエライブラリーであるSourceOECDが8月から全学で利用可能となりました。平成16年までOECD関連資料の冊子体の一部を購入していましたが、このたび電子版に切り替えました。これによりOECDの単行本、1998年以降に出版された定期刊行物、統計等が利用できます。

ご利用の際は以下のURLへアクセスしてください。

- URL : <http://new.sourceoecd.org>
- 利用ガイド : <http://www.oecdtkyo.org/pub/sourceoecd/guide.html>
- 利用環境 : Java Scriptが利用できるウェブブラウザ（IE 5.01以上推奨）、Statisticsでの表作成はWindows環境のIEからのみ（Macintosh不可）

なお、冊子体のバックナンバー等は、中央館新館4階集密書架にあります。

資源生物科学研究所分館一般公開について

平成17年5月14日に資源生物科学研究所の一般公開が行われました。これは二年毎に一般市民の方々に、研究所の研究内容などを公開し、研究所を紹介する行事です。

今回は400人以上の参加者がありました。遺伝子の抽出体験、カエルの卵細胞の抽出実験など、目で見て、触って楽しく最新の科学を体験していただきました。

図書館では、史料館の一階にて、貴重書の一部である「豆腐百珍」「農政全書」「Pflanzenphysiologie」「朝顔の写真（朝顔画報より）」などを展示し、ダーウィン自筆サイン（複製）入りしおりを差し上げました。約150名の方が参加されました。

オリエンテーション・ガイダンス（中央館）

以下のとおり実施し、延べ1,628人の方にご参加いただきました。

●図書館オリエンテーション

実施日：4/4～7/2 実施回数：50回 参加人数：1,239人

内容：中央館利用方法・規則の概説、蔵書検索のデモンストレーション、館内ツアー

●文献探索・入手支援ガイダンス

実施日：5/24～7/4 実施回数：16回 参加人数：373人

内容：文献探しから入手までの流れの概説（データベースの簡単な紹介、文献情報の見方の説明、文献の取り寄せ方の案内、など）

●その他（教員からの要請による実施）

PsycINFO利用説明会

実施日：4/26 実施回数：1回 対象：教育学部1年生 参加人数：16

内容：心理学関係の文献データベースの概要説明、デモンストレーション

オリエンテーション・ガイダンス（鹿田分館）

学部等から依頼を受け、次の利用案内を実施しました。

< 4月 >

医学部3年次編入生オリエンテーションにて（利用案内・時間外利用講習）

順正高等看護専門学校3年生オリエンテーションにて（利用案内・館内ツアー）

医学部医学科・保健学科新入生オリエンテーションにて（利用案内）

歯学部早期見学実習にて（利用案内・館内ツアー・時間外利用講習）

医歯学総合研究科講義にて（文献検索・利用案内・時間外利用講習）

< 4～5月 >

医学部保健学科看護学専攻2年生図書館文献検索ガイダンスにて（文献検索）

オリエンテーション・ガイダンス（資源生物科学研究所分館）

資源生物科学研究所の新入生（4/11）、農学部新入生（5/9、16）に対し、オリエンテーションを実施しました。館内を案内しながら、図書館の概要や利用方法、展示史料について説明しました。

SciFinder Scholar 利用説明会

以下のとおり、実施しました。

実施日：6/30 実施回数：2回 対象：本学津島および鹿田地区ご所属の学生・教職員

参加人数：56人 講師：(社)化学情報協会 芦田仁氏

内容：化学文献・物質・反応を収録したデータベースの概要説明、デモンストレーション

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

中央館 教員業績コーナー（本館1階）に配架

泉本勝利（分担執筆）[大学院自然科学研究科]

動物資源利用学：乳・肉・卵の科学 文永堂，1998 (648/D)

Meat in science and industry University Education Press，2002 (648.21/I)

伊藤大輔 [文学部]

金刀比羅宮の美術：思いもよらぬ空間芸術 小学館，2004 (721.087/I)

金刀比羅宮の名宝（責任編集） 金刀比羅宮，2004 (F721/K)

平成の大遷座祭斎行記念冷泉為恭とその周辺：模本と復古やまと絵（責任編集）

金刀比羅宮，2004 (F721.2/H)

榎本 敬（共編）[資源生物科学研究所]

岡山市植物目録 岡山市環境調整課，2005 (LF470/O)

木之下忠敬 [文学部]

Noms propres subjectivisés dans le style indirect libre de L'éducation sentimentale

Faculté des Lettres de l'Université d'Okayama，2005 (950.2/F)

倉地克直 [文学部]

漂流記録と漂流体験 思文閣出版，2005 (290.92/K)

- 河本 修 (共著) [大学院自然科学研究科]
 実用的な英語科学論文の作成法 朝倉書店, 2004 (407/K)
- 水藤 寛 (共著) [廃棄物マネジメント研究センター]
 Waves and tidal flat ecosystems Springer, 2003 (468.8/W)
- 高橋文博 [文学部]
 近世の心身論：徳川前期儒教の三つの型 ペリかん社, 1990 (121.3/T)
 吉田松陰 清水書院, 1998 (289.1/Y)
 近代日本の成立：西洋経験と伝統 (編) ナカニシヤ出版, 2005 (210.6/K)
- 田口雅弘 [経済学部]
 ポーランド体制転換論：システム崩壊と生成の政治経済学
 岡山大学経済学部, 2005 (312.349/T)
- 田熊文雄 [文学部]
 近代ドイツの国制と市民：地域・コルポラツィオンと集権国家
 岡山大学文学部, 2003 (234.06/T)
- 出村和彦 (訳) [文学部]
 アウグスティヌス伝 上・下 教文館, 2004 (132.1/A)
- 永井明博 (共著) [大学院環境学研究科]
 ダム管理の水文学：河川流域の洪水予測を中心として 森北出版, 2003 (517.7/D)
- 中谷文美 (共編著) [大学院文化科学研究科]
 ジェンダーで学ぶ文化人類学 世界思想社, 2005 (389.04/G)
- 三谷恵一 [名誉教授]
 晩鐘：句集 本阿弥書店, 2003 (911.368/M)
- 山下隆弘 [名誉教授]
 情報化時代のマーケティング 大学教育出版, 1997 (675/Y)
- 吉岡伸一 [法学部]
 金融法雑論 2 [吉岡伸一], 2004 (338.32/Y)

資源生物科学研究所分館

- 榎本 敬 [資源生物科学研究所]
 岡山県適用農作物病虫害雑草図鑑：わかる・役立つ・安心--防除の手引き (監修)
 山陽放送, 2005 (321/159)
- 岡山市植物目録 (共編) 岡山市環境調整課, 2005 (170/946)
- 総社市植物目録 (共編) 総社市生活環境部環境課, 2005 (170/947)

(敬称略五十音順)

会議

学外

- 17. 4.21 第53回中国四国地区大学図書館協議会総会
- 4.22 第32回国立大学図書館協会
中国四国地区協会総会(於 セントコア山口)
・図書館職員の専門性確保のための職員研修
(講習)会のあり方について、その他
- 5.12 平成17年度岡山県図書館協会第1回理事会
(於 岡山県立図書館)
・平成16年度事業報告、決算報告、その他
- 5.19～5.20
第76回NPO法人日本医学図書館協会総会
(於 朱鷺メッセ)
・平成16年度事業報告、決算報告、その他
- 5.23 平成17年度岡山県図書館協会総会
(於 岡山県立図書館)
・平成16年度事業報告、
収支決算報告について、その他
- 6.10 中国四国地区国立大学図書館
学術情報・図書館・事務部長会議
(於 広島大学図書館)
・国立大学図書館協会理事会報告、その他
- 6.20 岡山県大学図書館協議会
平成17年度第1回総会
(於 岡山大学附属図書館)
・研修事業について、
平成17年度予算(案)について、その他
- 6.30 第52回国立大学図書館協会総会
(於 名古屋大学)
・平成16年度決算報告、同監査報告について、
その他

学内

- 17. 6.7 平成17年度第1回附属図書館運営委員会
- 7.20 平成17年度第1回附属図書館運営委員会
鹿田分館分科会

研修

- ・平成17年度(前期)岡山大学職員研修
(放送大学科目履修コース)
参加者 岡本和子(4月～9月)
- ・目録システム地域講習会(図書コース)
参加者 久磨由美子(6.8～6.10)
- ・平成16年度機関リポジトリとメタデータ研究成果
情報の組織化と発信に関するワークショップ
参加者 大園隼彦(6.22)
- ・平成17年度国立大学図書館協会
マネジメント・セミナー
参加者 藤森末雄(7.1)

編集委員会から

この「楷」41号が発行される頃には、もう10月です。大学も後期が始まり、新入生の皆さんも随分大学生活に慣れたことと思います。今号の「楷」も岡山大学附属図書館、また大学図書館全体が置かれている状況や活動について、皆さんにお知らせできる内容になったと思います。年二回ではありますが、「楷」を通して図書館の動きを知っていただければ幸いです。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.41 平成17年10月1日

発行人 藤森末雄 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700 8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>